

# 新潟米 マンスリーレポート

## (令和5年12月号)

### 《今月の特集①》

#### 令和6年産の県生産目標について

11月29日に開催された新潟県農業再生協議会において、本県の令和6年産主食用米の生産目標を54.6万トン、面積換算で99,900haに設定しました。

全国の主産地の令和5年6月末の在庫量が前年同時期から減少している中で、新潟米の在庫量は増加しており、決して主食用米を増産できる状況ではありません。令和6年産の目標は令和5年産の作付面積から県全体で主食用米の作付面積を700ha(0.7%)減少させる目標としたので、県全体として目標を実現できるよう、引き続き需要に応じた生産に取り組みましょう。

#### 【令和6年産の主食用米の県生産目標】

- 国は、令和6年産主食用米等の生産量の見通しを、令和5年産主食用米等の生産量の見通しと同水準に設定。
- 本県の令和7年6月末の在庫量を適正量(年間需要量の2.5か月分、11.4万トン)とするための、本県の6年産の適正生産量は54.6万トン(面積換算で99,900ha)



国の需給見通しと、本県産米の在庫量を適正化する考え方の両面から本県の令和6年産主食用米の生産目標は、54.6万トン(99,900ha)とする。

	令和5年産 実績	令和6年産 県生産目標	
数量	52.5万トン※	54.6万トン	
面積	100,600 ha	面積換算 99,900ha	前年実績差 ▲700 ha 令和5年産の生産目標と 同水準まで作付転換が必要

※ 5年産は規格外が例年より多く発生しているため、特例的に規格外も含めて生産量を算出

## 《今月の特集②》

### 県 12 月補正予算事業について

今夏の高温・渇水による農林水産物への影響緩和に向けた取組や、今後も想定される気象変動リスクに対応した持続可能な農業経営等の実現につながる取組を支援する補正予算を計上します。

(※ 県 12 月定例会の議決前であり、一部内容が変更となる場合があります。)

#### 1 高温・渇水に強い作付体系転換支援事業

##### (1) 作期分散支援

○ 令和6年産において「コシヒカリから他品種への転換」や「直播」によりリスク分散を図る取組に対して、転換面積に応じて支援

対象となる取組：

- ① 令和6年産にコシヒカリから他品種へ転換を図る取組
- ② 令和6年産に移植栽培から直播栽培へ転換を図る取組

助成対象面積・要件：

助成対象者単位で令和5年産から令和6年産にかけての

- ① コシヒカリから他品種への転換予定面積
- ② 移植栽培から直播栽培への転換予定面積

ただし、原則として地域農業再生協議会単位で加工用米＋新規需要米の作付面積を令和5年産実績から減少させない。

支援単価：10a あたり 2,000 円以内

##### (2) 高温・渇水に強い作物の生産拡大支援

○ 令和6年産において、高温・渇水の影響が少ない作物の生産拡大を図る取組に対して、作付拡大予定面積に応じて支援

対象作物：(※基幹作)

WCS 用稲、飼料作物、加工用米、米粉用米、飼料用米  
新市場開拓用米、麦、大豆、そば、高収益作物

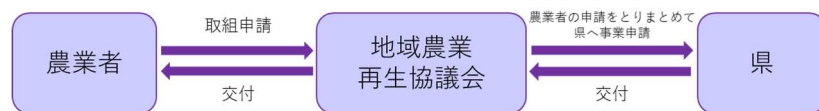
助成対象面積・要件：

助成対象者単位で令和5年産から令和6年産にかけての対象作物の合計作付面積の拡大分

支援単価：10a あたり 5,000 円以内

(WCS 用稲、飼料作物を増加させた場合は、当該増加面積計に対して 10a あたり 5,000 円上乗せ)

##### ○ 事業の流れ



#### 2 新潟米の「変わらないおいしさ」お届け支援事業

○ 今夏の高温・渇水の影響による米の収量減少、等級低下の中でも新潟米が「変わらないおいしさ」であることについて、農業者等が県外小売店等に伝える取組を支援。

※ 事業の詳細については、下記担当まで御連絡ください。

担当	1の事業	新潟県農林水産部農産園芸課	水田農業係	電話	025-280-5295
	2の事業	〃	主要作物係	電話	025-280-5194

# 新潟米の販売状況

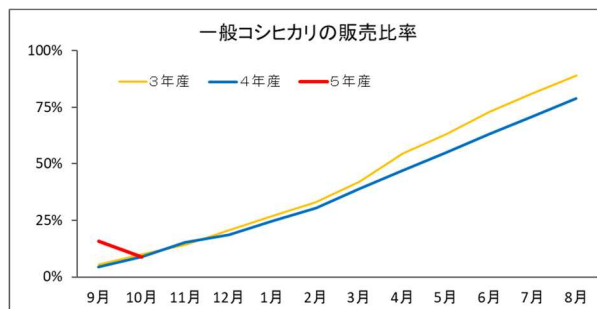
## 概況

販売比率について、先月の公表の時点では新潟一般コシヒカリやこしいぶきは、前年同時期を大きく上回っていたが、10月末時点では新潟一般コシヒカリは前年と同等となった。  
なお、こしいぶきは前年同時期を8ポイント上回っている。

## 販売比率

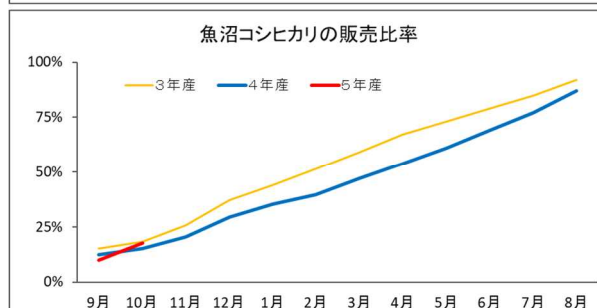
### (1) 一般コシヒカリ

10月末現在の5年産一般コシヒカリの販売比率は9%となっており、4年産と同等、3年産比1ポイント減となっている。



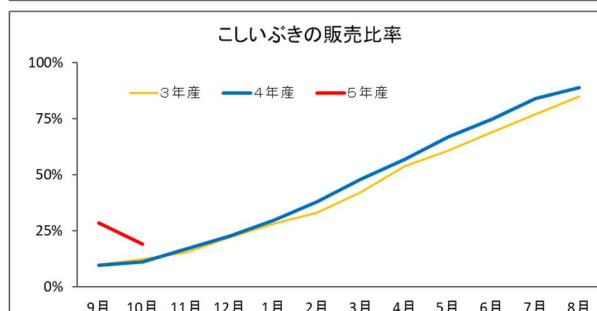
### (2) 魚沼コシヒカリ

10月末現在の5年産魚沼コシヒカリの販売比率は18%となっており、4年産比3ポイント増、3年産と同等となっている。



### (3) こしいぶき

10月末現在の5年産こしいぶきの販売比率は19%となっており、4年産比8ポイント増、3年産比6ポイント増となっている。



## 販売比率の推移

産地・年産		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般コシヒカリ	3年産	6%	10%	14%	21%	27%	33%	42%	55%	63%	73%	81%	89%
	4年産	5%	9%	15%	19%	25%	31%	39%	47%	55%	63%	71%	79%
	5年産	16%	9%										
魚沼コシヒカリ	3年産	15%	18%	26%	37%	44%	51%	59%	67%	73%	79%	85%	92%
	4年産	12%	15%	20%	29%	35%	40%	47%	54%	61%	69%	77%	87%
	5年産	10%	18%										
佐渡コシヒカリ	3年産	4%	15%	20%	27%	36%	41%	50%	58%	65%	73%	80%	87%
	4年産	5%	13%	18%	23%	32%	37%	46%	52%	59%	68%	73%	77%
	5年産	5%	15%										
岩船コシヒカリ	3年産	8%	11%	18%	27%	33%	40%	48%	56%	61%	70%	75%	87%
	4年産	11%	11%	17%	24%	30%	36%	45%	55%	63%	73%	80%	88%
	5年産	10%	13%										
こしいぶき	3年産	10%	13%	16%	22%	28%	33%	42%	54%	61%	69%	77%	85%
	4年産	10%	11%	17%	23%	30%	38%	48%	57%	67%	75%	84%	89%
	5年産	29%	19%										

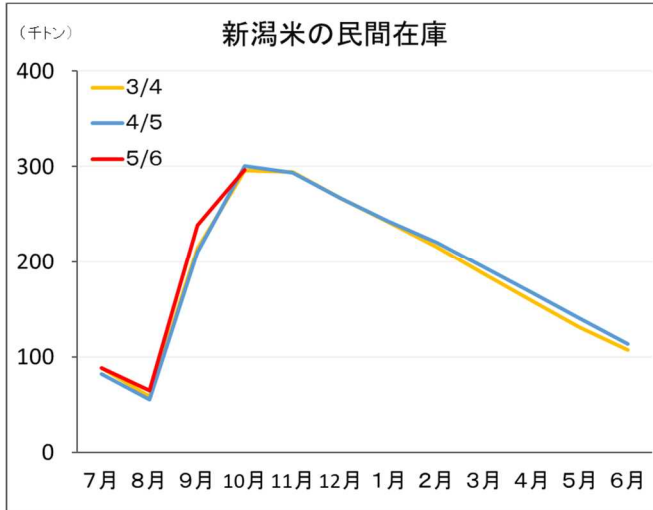
資料 農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注) 各年産の9月から12月は、販売比率非公表のため、直近月の集荷量で除して算出。

在庫状況

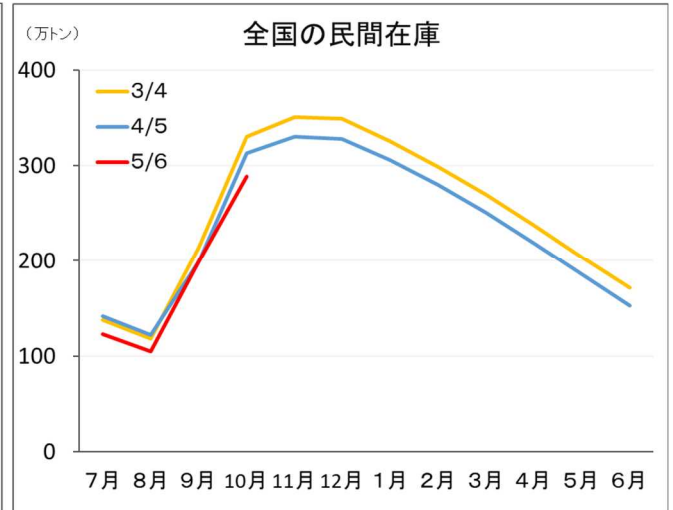
(1)新潟米

10月末現在の新潟米の民間在庫(うるち米)は、前年同月から4千トン減、前々年同月から1千トン増の297千トンとなった。



(2)全国

10月末現在の全国の民間在庫(うるち米)は、前年同月から24万トン減、前々年同月から41万トン減の289万トンとなった。



民間在庫の推移(うるち米)

(単位:新潟米は千玄米トン、全国は万玄米トン)

		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟米	3/4	88	58	214	296	294	267	241	216	187	158	131	107
	3年産米	0	1	175	266	268	245	223	200	174	147	121	98
	1年古米(2年産)	84	54	35	28	24	20	17	14	12	11	10	8
	4/5	82	55	210	301	294	267	243	220	194	167	140	114
	4年産米		1	177	274	272	250	229	209	184	158	132	107
	1年古米(3年産)	74	48	28	23	19	16	13	11	9	9	7	6
全国	5/6	88	65	239	297								
	5年産米		2	195	260								
	1年古米(4年産)	83	59	40	33								
	3/4	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
	3年産米	0	11	129	253	285	293	278	258	236	208	179	149
	1年古米(2年産)	129	99	77	68	57	47	39	33	28	23	19	17
全国	4/5	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153
	4年産米	1	12	112	236	263	273	259	240	217	191	163	134
	1年古米(3年産)	124	94	71	59	49	40	33	26	21	17	14	11
	5/6	123	105	199	289								
	5年産米	1	14	131	232								
	1年古米(4年産)	106	78	56	46								

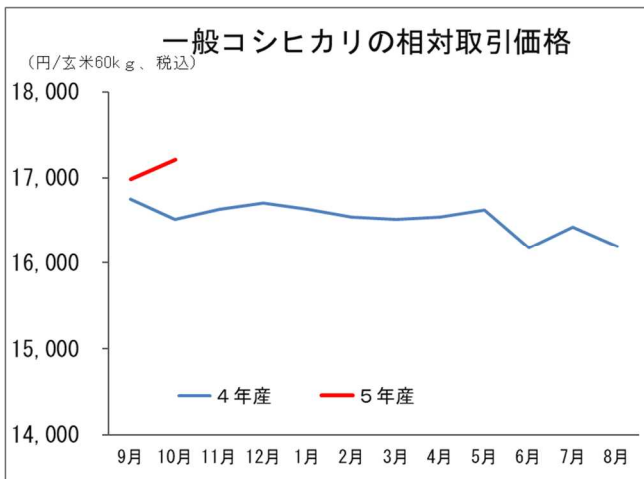
資料：農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

- 注：1 出荷段階及び販売段階における水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。  
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。  
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

相対取引価格

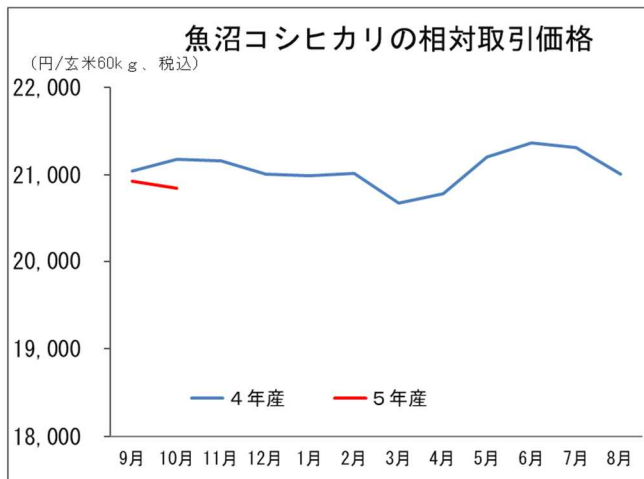
(1)一般コシヒカリ

10月の一般コシヒカリの相対取引価格(1等)は、前年同月に比べ698円上回り、17,208円(玄米60kg、税込)となった。



(2)魚沼コシヒカリ

10月の魚沼コシヒカリの相対取引価格(1等)は、前年同月に比べ328円下回り、20,851円(玄米60kg、税込)となった。



相対取引価格の推移

(単位:円)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般コシヒカリ	3年産	15,820	15,596	15,864	15,702	15,732	15,426	15,624	15,300	15,343	15,265	15,182	15,315
	4年産	16,751	16,510	16,636	16,708	16,634	16,542	16,510	16,542	16,622	16,179	16,418	16,196
	5年産	16,983	17,208										
魚沼コシヒカリ	3年産	20,301	20,071	20,334	20,555	20,620	20,655	20,535	20,460	20,644	20,659	20,704	20,770
	4年産	21,047	21,179	21,161	21,006	20,988	21,020	20,680	20,786	21,205	21,365	21,317	21,007
	5年産	20,929	20,851										
佐渡コシヒカリ	3年産	16,194	16,190	16,216	16,555	16,204	16,129	16,070	16,620	16,527	-	-	-
	4年産	17,182	17,215	17,245	17,172	17,261	16,825	16,971	-	16,778	-	-	-
	5年産	17,337	17,507										
岩船コシヒカリ	3年産	16,198	16,161	16,142	16,184	16,179	15,786	15,980	-	-	-	-	-
	4年産	17,144	16,893	17,284	16,850	17,179	16,775	17,008	-	-	-	-	14,773
	5年産	17,114	17,432										
こしいぶき	3年産	12,794	12,781	13,313	12,648	12,691	12,380	12,494	11,841	12,294	12,097	12,006	12,034
	4年産	13,405	13,139	13,353	13,389	13,462	13,249	13,544	13,041	13,441	12,979	12,899	12,934
	5年産	14,696	14,771										

資料 農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの、または、当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表が行われないもの。

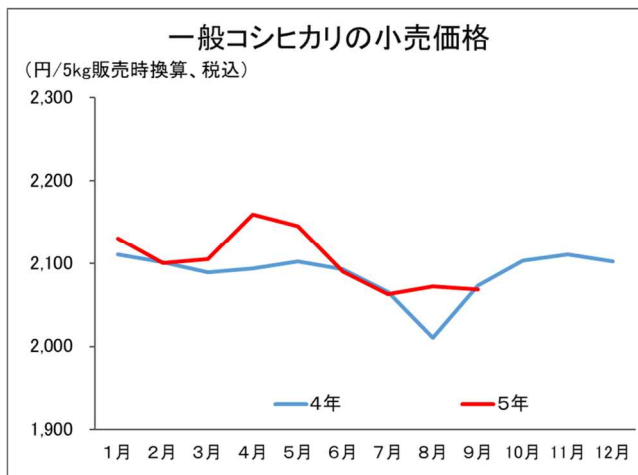
※ 相対取引価格は出荷業者と卸売業者との間で数量と価格が決定された主食用米の相対取引契約の価格(運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格)を加重平均したものです。

小売価格

(POSデータ)

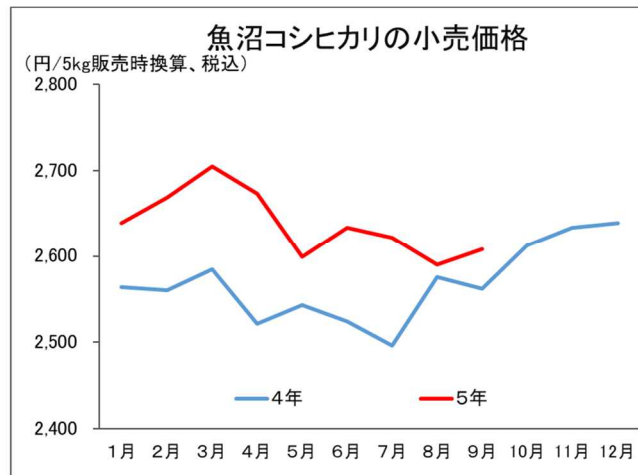
(1)一般コシヒカリ

9月の一般コシヒカリの小売価格は、前年同様に比べ5円下回り、2,068円(5kg袋販売時換算、税込)となった。



(2)魚沼コシヒカリ

9月の魚沼コシヒカリの小売価格は、前年同様に比べ46円上回り、2,608円(5kg袋販売時換算、税込)となった。



小売価格(POSデータ)の推移

(単位:円)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般コシヒカリ	3年	2,136	2,142	2,119	2,124	2,063	2,143	2,115	2,182	2,158	2,101	2,123	2,091
	4年	2,111	2,101	2,089	2,094	2,102	2,093	2,066	2,010	2,073	2,103	2,111	2,102
	5年	2,130	2,100	2,105	2,159	2,145	2,090	2,063	2,072	2,068			
魚沼コシヒカリ	3年	2,663	2,679	2,672	2,656	2,621	2,526	2,547	2,594	2,579	2,616	2,660	2,528
	4年	2,564	2,560	2,585	2,521	2,543	2,524	2,496	2,576	2,562	2,613	2,633	2,639
	5年	2,639	2,669	2,705	2,673	2,599	2,633	2,622	2,590	2,608			
佐渡コシヒカリ	3年	2,274	2,267	2,285	2,280	2,254	2,242	2,329	2,289	2,313	2,147	2,194	2,139
	4年	2,196	2,150	2,145	2,149	2,206	2,133	2,201	2,114	2,149	2,168	2,192	2,179
	5年	2,164	2,137	2,206	2,212	2,175	2,133	2,186	2,136	2,273			
こしいぶき	3年	1,816	1,811	1,818	1,776	1,784	1,846	1,820	1,741	1,743	1,703	1,699	1,676
	4年	1,665	1,618	1,653	1,472	1,465	1,483	1,455	1,467	1,609	1,655	1,702	1,590
	5年	1,584	1,521	1,536	1,682	1,754	1,684	1,699	1,715	1,759			

資料:農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)「-」は、当該月の取扱量が100トン未満であり、価格の公表が行われないもの。

※ 当資料公表時点で、国は6月時点の小売価格未公表

編集後記 ～鍋のメは何派?～

こんにちは!最高気温が1桁となる日も増え、鍋料理の美味しい季節となりました。

個人的には某メーカーのごま豆乳鍋の素が昔から好きで、  
今でも具材を様々に変えながら飽きることなく食べています。

鍋といえばメも欠かせませんよね!水炊きや寄せ鍋では雑炊、キムチ鍋やすき焼きでは  
うどん、というように、スープによって変える人も多いのではないのでしょうか。

様々なメがある中、いくつかの人気ランキングを見てみたところ、

「ごはん」の気は根強く、1位にランクインするものがほとんどでした。

旨味が溶け出したスープの最後の1滴まで楽しみきれぬ点を推す声が多かったです。



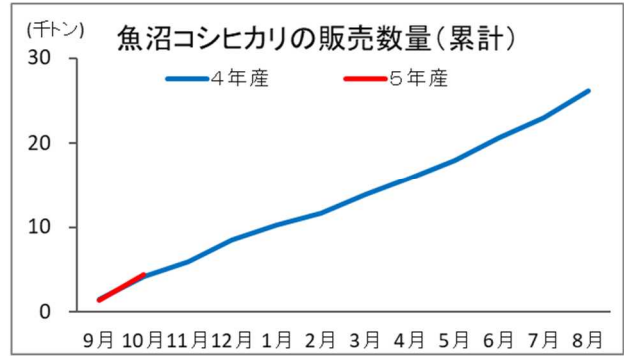
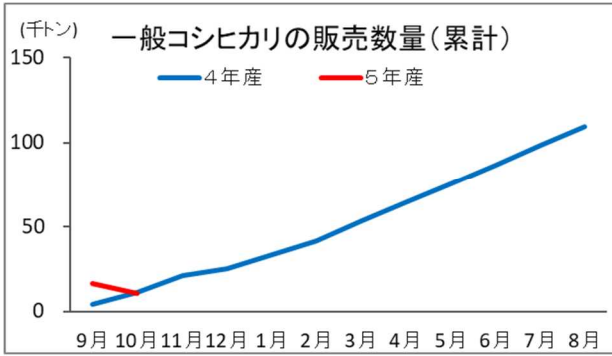
発行元:新潟県農林水産部農産園芸課

TEL:025-280-5295

URL:https://www.niigatamai.info

# 資料編

## 販売状況



### 販売数量(累計)の推移

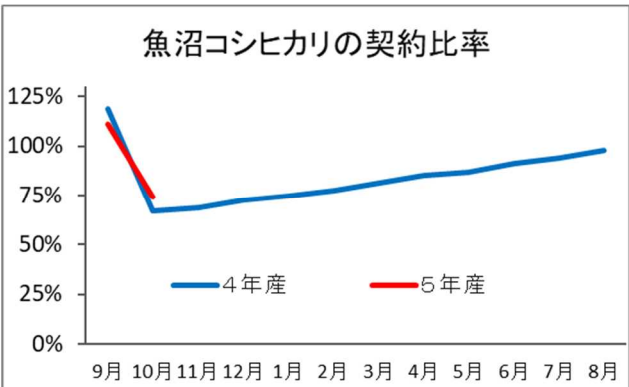
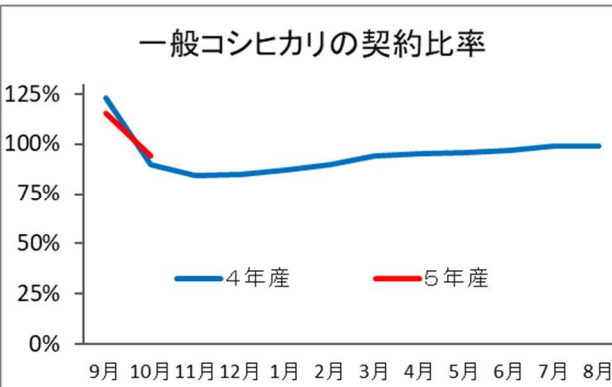
(玄米千トン)

産地・年産		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般 コシヒカリ	3年産	4.3	11.7	17.5	25.7	33.6	94.5	52.7	74.0	86.1	100.0	110.8	121.7
	4年産	4.0	11.1	21.2	25.3	33.3	41.9	53.4	64.6	75.5	86.7	98.0	109.5
	5年産	16.5	10.8										
魚沼 コシヒカリ	3年産	1.9	5.0	7.4	10.7	12.7	14.9	17.2	19.6	21.5	23.6	25.5	27.3
	4年産	1.5	4.2	5.9	8.5	10.2	11.6	13.9	15.9	18.0	20.6	23.0	26.1
	5年産	1.4	4.4										
佐渡 コシヒカリ	3年産	0.2	1.7	2.7	3.7	5.0	5.7	6.9	8.0	9.0	10.1	11.1	12.1
	4年産	0.3	1.6	2.6	3.4	4.6	5.3	6.7	7.6	8.6	9.9	10.7	11.2
	5年産	0.3	1.5										
岩船 コシヒカリ	3年産	0.3	1.2	2.0	3.0	3.6	4.4	5.2	6.1	6.7	7.7	8.3	9.6
	4年産	0.3	1.1	1.7	2.5	3.1	3.7	4.7	5.7	6.5	7.5	8.3	9.3
	5年産	0.4	1.3										
こしいぶき	3年産	2.6	4.2	5.9	8.5	11.0	13.0	16.6	22.7	25.8	29.5	32.9	36.1
	4年産	2.3	3.9	6.1	8.0	10.5	14.4	17.9	21.5	25.2	28.3	31.7	33.6
	5年産	8.1	5.5										

(資料)農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)年度毎に調査対象者が異なる可能性がある

## 契約状況



### 契約比率の推移

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
一般 コシヒカリ	3年産	108%	77%	73%	77%	79%	88%	91%	94%	97%	98%	99%	100%
	4年産	123%	90%	85%	85%	87%	90%	94%	95%	96%	97%	99%	99%
	5年産	115%	94%										
魚沼 コシヒカリ	3年産	126%	70%	72%	76%	79%	82%	84%	87%	90%	93%	95%	98%
	4年産	119%	67%	69%	72%	75%	77%	81%	85%	87%	91%	94%	98%
	5年産	111%	74%										
佐渡 コシヒカリ	3年産	271%	106%	89%	91%	91%	94%	99%	99%	99%	99%	100%	100%
	4年産	227%	105%	89%	90%	94%	95%	98%	98%	100%	100%	100%	100%
	5年産	212%	126%										
岩船 コシヒカリ	3年産	268%	90%	90%	90%	91%	91%	101%	102%	102%	102%	100%	100%
	4年産	367%	97%	96%	96%	99%	99%	99%	99%	100%	101%	101%	100%
	5年産	248%	98%										
こしいぶき	3年産	103%	82%	73%	76%	78%	84%	91%	97%	97%	97%	99%	99%
	4年産	113%	81%	82%	82%	84%	86%	97%	98%	98%	99%	99%	99%
	5年産	106%	92%										

資料 農林水産省「米に関するマンスリーレポート」

(注)各年産の9月から12月は、契約比率未公表のため、直近月の集荷量で除して算出。